

■ 大学改革のフォローアップ

- ・ 各大学の役割・機能の明確化を進め、大学の連携・統合などを進めていくことは重要であるが、特に地方において大学教育の空白地域が発生しないように留意すべき。地域によって状況が異なるため、大学と地方自治体や経済界が連携して大学を核としたプラットフォームを構築していくことが必要。
- ・ 地方都市で多くの留学生を受け入れ、グローバルに活躍できる人材を輩出している大学もある。日本の学生にとっても日常から多言語・多文化な環境で学生生活を送ることは非常に意義があり、また地域社会においてもインパクトがある。多くの留学生の受け入れを可能とする環境整備も重要。
- ・ 実務家出身の教員を増やすことは推進すべき。ただし、現状で実務家出身の教員の授業が必ずしも「教育」という点からするとレベルが高いものになっているとは限らないのではないか。実務家出身の教員の研修を各大学に任せるのではなく、文科省サイドでも研修プログラムを策定する、事例を共有するなどが必要。

■ 高齢者雇用

- ・ WHO の定義では 65 歳以上を「高齢者」としているが、人生 100 年時代を迎える日本においては一概に 65 歳を高齢者とするに違和感を覚える。過去の高齢者と比較しても現在の高齢者は身体機能も知的機能も若返っており、社会の中で構築されてきた「65 歳以上は高齢者である」という意識を変えていくことが必要。
- ・ 全体的な傾向として 65 歳以上の方の IT を活用するスキルは若い世代と比較して高くない。今後の社会的な環境変化を考えると 50 代以上の IT スキルの向上は社会全体の課題となる。
- ・ 社会で活躍してきた 65 歳以上の方々を持つ知識・技術・経験を社会で活用していくためにもマッチングできるシステムを構築することが重要である。シルバー人材センターなどの仕組みではマッチングできる内容に限りがあるように思う。IT などを駆使したマッチングサービスの拡充を進めていくことが必要。そのためにも前述した IT スキルの向上は重要である。